

## 令和5年度の国内希少野生動植物種の選定について

## 1. 国内希少野生動植物種の指定状況について

- 環境省では、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（以下、「種の保存法」とする。）に基づき、絶滅のおそれのある種の実態調査等を行い、国内希少野生動植物種の指定の検討を実施し、現在、442種が国内希少野生動植物種（特定第一種国内希少野生動植物種、及び特定第二種国内希少野生動植物種を含む。）に指定されている。

## 2. 今年度の新規指定候補種について

## (1) 今年度の指定について

- 今般、現地調査や専門家へのヒアリング調査等の結果に基づき、個体数や分布その他の必要な情報を得た上で、令和5（2023）年6月27日に開催された「国内希少野生動植物種の選定に関する検討会（非公開）」等において、各分野の有識者に国内希少野生動植物種への指定の必要性と有効性を了解いただいた、ウスオビルリゴキブリ等の6種（動物3種、植物3種）について、国内希少野生動植物種の新規指定候補種とする（表1のとおり）。
- このうち、種の保存法第6条第2項第4号の政令で定める、卵及び種子の捕獲等の規制を適用する種として1種（ベニエリルリゴキブリ）を指定する。なお、今回の指定候補種のうち、3種（動物2種及び植物1種）は日本固有種（又は固有亜種）。
- 動物3種については、令和2年又は令和3年に新種として報告され捕獲等による影響が懸念されたことから、令和3年7月に緊急指定種に指定された。緊急指定後、現地調査等による知見の収集を行い、分布が限られていることに加え、環境変化や捕獲等による影響が引き続き懸念されることから、今回国内希少野生動植物種の候補として選定した。
- 植物については、開発等により生育地の減少が懸念される石灰岩地生のコミノヒメウツギ等、生息・生育状況や流通状況に係る情報収集等の指定に向けた準備が整うとともに、指定による効果が見込まれる種を選定した。

## (2) 指定候補種における国民提案種について

- 募集を開始した平成26（2014）年度から令和4（2022）年12月末までの間に合計67種、のべ85件の提案を受理した（令和4年の提案件数は0件）。
- 提案を受理した種のうち30種・変種は国内希少野生動植物種に指定済み。
- その他の37種のうち8種は絶滅のおそれが低いことから現時点では指定しない

方針としている。それ以外の提案種（既指定種の指定区分変更を含む。）の対応については引き続き検討する。

※ その他これまでの国民提案種の対応状況は参考資料4のとおり。

### (3) スケジュール（予定）

- 本委員会後、12月22日（金）よりパブリックコメントを開始。パブリックコメント終了後には、速やかに指定に向けた手続きを進める予定。

表1 令和5年度の国内希少野生動植物種の指定候補種一覧

綱名	目	種名	卵・種子の指定
昆虫綱	ごきぶり目	むかしごきぶり科	
		<i>Eucorydia donanensis</i> (ウスオビルリゴキブリ)	
		<i>Eucorydia miyakoensis</i> (ベニエリルリゴキブリ)	●
唇脚綱	おおむかで目	おおむかで科	
		<i>Scolopendra alcyona</i> (リュウジンオオムカデ)	
植物界		まめ科	
		<i>Sophora franchetiana</i> (ツクシムレスズメ)	
		らん科	
		<i>Disperis neilgherrensis</i> (ジョウロウラン)	
		ゆきのした科	
	<i>Deutzia hatusimae</i> (コミノヒメウツギ)		

(参考) 国内希少野生動植物種の指定状況等について

平成 29 (2017) 年の種の保存法改正の際の附帯決議として、「国内希少野生動植物種の指定は、科学的知見を最大限に尊重して実施することとし、当面、2030 年度までに 700 種を指定することを目指し、候補種の選定について検討すること。」が求められている。このため、今後も必要性和有効性を踏まえて国内希少野生動植物種の適切な指定を推進する。

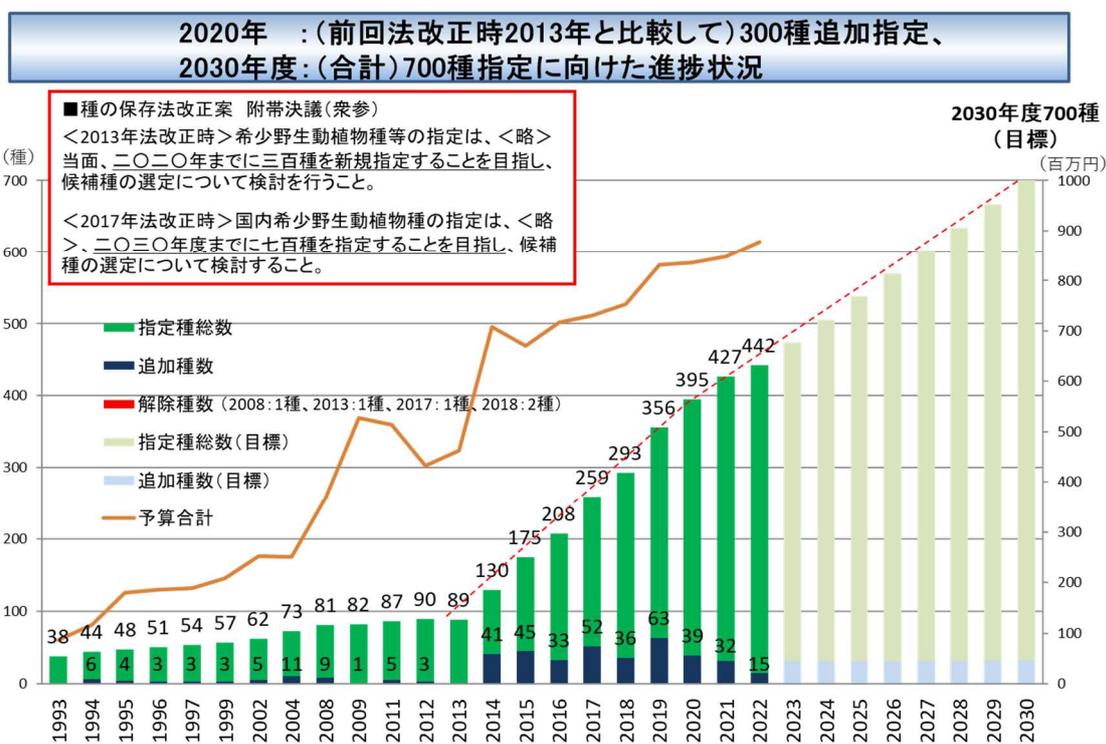


図1 国内希少野生動植物種の指定状況